石田梅岩先生の原風景――天地自然と一体に感じられる学びの場

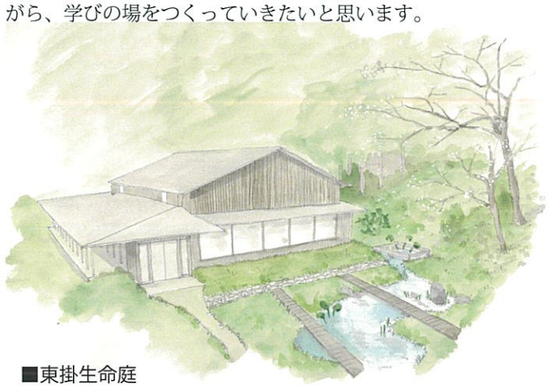
テーマ１　梅岩先生の教えのキーワードである「正直、勤勉、質素・倹約」などの実践についての建築的な考え方

梅岩先生の生誕地：里山の風土、その豊かさを五感で感じる環境づくり

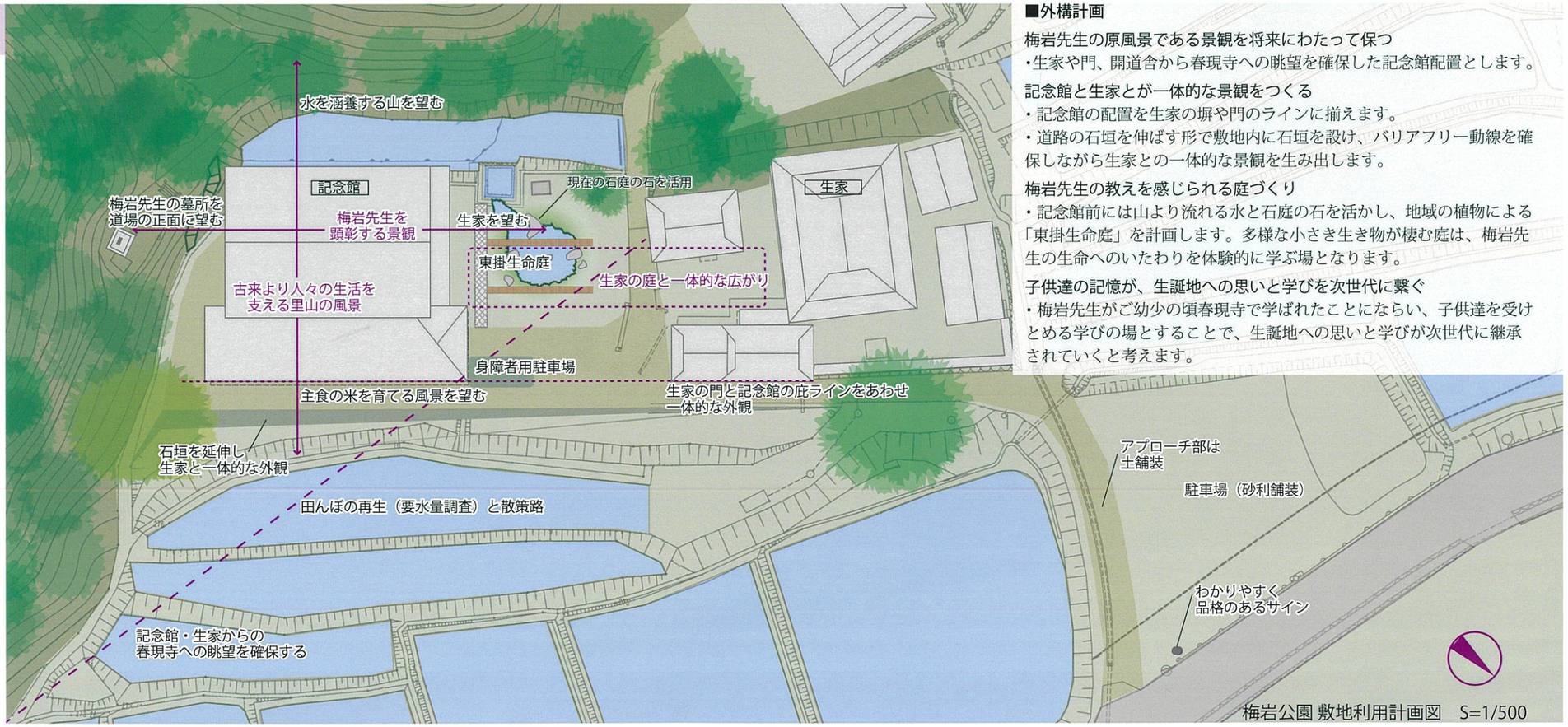
記念館計画地とその周辺環境は、古来より人々の生活を成り立たせてきた里山の自然が凝縮されています。
日本人皆の心に懐かしさを抱かせるこの里山の構成全体を体感できる場、石田梅岩先生の「天地自然と一体」の心の有り様を気づかせてくれる環境といえるのではないでしょうか。

人々の生活を支える田畑、里山の生活を成り立たせる水を涵養する山、今も守られる梅岩先生の生家、そして梅岩先生の墓所、これらの周辺環境そのものが、この地を訪れる大きな意義の一つと考えます。

そこで本計画では
・梅岩先生の生家と一体となった景観の創出
・「建物が四方に開かれた」「周辺環境全体が感じられる」建築
・梅岩先生の心の原風景であるこの地の風土を十分に感じられる場
を目指しました。石門心学の礎となった環境を将来に向かって保ちながら、学びの場をつくっていきたいと思います。



■東掛生命庭



梅岩公園 敷地利用計画図　S=1/500

■外構計画

梅岩先生の原風景である景観を将来にわたって保つ
・生家や門、開道舎から春現寺への眺望を確保した記念館配置とします。

記念館と生家とが一体的な景観をつくる
・記念館の配置を生家の塀や門のラインに揃えます。
・道路の石垣を伸ばす形で敷地内に石垣を設け、バリアフリー動線を確保しながら生家との一体的な景観を生み出します。

梅岩先生の教えを感じられる庭づくり
・記念館前には山より流れる水と石庭の石を活かし、地域の植物による「東掛生命庭」を計画します。多様な小さき生き物が棲む庭は、梅岩先生の生命へのいたわりを体験的に学ぶ場となります。

子供達の記憶が、生誕地への思いと学びを次世代に繋ぐ
・梅岩先生がご幼少の頃春現寺で学ばれたことにならい、子供達を受けとめる学びの場とすることで、生誕地への思いと学びが次世代に継承されていくと考えます。